

石垣市のがん患者の負担軽減を目指して
第50回「市長とランチミーティング」は8月25日(月)に「八重山のがん患者を支援する・やいまゆんたく会」の皆さんと行われました。

中山市長 八重山の医療に関しては色々な離島のハンディがあつて、その中でも難病患者の中には島で医療が受けられず、沖縄本島へ治療を受けに行くなどご苦労されている方が沢山いると聞いています。今後は県立八重山病院も建設されますし、治療のための渡航なども含め行政としてのどのような形で病気との闘いを支援できるのかをしっかりと考えていかなければならないと思います。今日はそのような観点から皆さんと意見交換していききたいと思います。

会員 今や二人に一人が「がん」にかかり、三人に一人が「がん」で亡くなるという時代と言われています。八重山のがん患者を支援していく事を目的に設立された「やいまゆんたく会」ですが、現在入会者が少なく現在二十数名の会です。がんである事を他人に知られたくない、特に会社に

勤めている人はなおさら職場に知られると仕事に影響がでる事を気にして自分だけで病気に闘い、鬱になってしまふケースもあります。心の窓を開くことで、色々な情報を得ることも出来るし、がんにかかって大丈夫だと前向きに生きられる事が出来ると思うので、もっと多くの方に入会していただきたいと願っています。当会では毎月第三土曜日に定例会を開催し、勉強会や講演会などを開き会員同士の交流を行い、がんに関する情報交換や情報発信を行い会員同士が元気を分かち合える時間を過ごしています。

新城純会長 八重山における潜在的ながん患者は150人、200人はいるのでであろうと言われています。沖縄県内では年間で9000名新しいがん患者が発生しているという事です。そのがん患者の多くが他人に知られたくないと

いう思いから、一人で悩みなから治療をされていて、特に現役の方については社会的な立場も考えるとなかなか人に相談できずにいる方が多いようです。石垣市においては平成24年から難病を含むがん患者の治療のための渡航費支援を実施していただき非常に感謝しています。

会員 県内では、いつでも無料で使用でき、がん患者やその家族が交流できるがんサロンが開設されてきています。八重山でも、市民がいつでも情報交換ができる無料のサロンが必要だと思います。現在は少ない運営資金の中から会場使用料を払って、定例会を開いている状況です。定例会や情報交換会などが無料で開くことができる場所ができれば「ゆんたく会」の周知も図れるのではないかと考えます。ぜひ、行政のお力添えでがんサバイバーの皆さんを支援し

て頂きたいと思っています。

健康福祉センター 前底所長 現在、健康福祉センターでは検診ホールや視聴覚室を有料で貸し出していますが、仮に一つの団体に無料でスペースを提供すると、市内には他にも福祉団体が沢山ありますので、他の団体も無料で貸して欲しいという話になってしまっています。そこが大変つらいところなのですが、現在健康福祉センター内において無料で利用できるスペースとして考えられるのが、図書室か憩いの広場、あるいは社会福祉協議会のボランティア室となります。

会員 社会福祉協議会のボランティア室や図書室が使用できるのであれば十分だと思います。社会福祉協議会と調整の上でボランティア室などを利用していききたいと思います。

会員 昨年の10月から渡航費の助成がはじまり大変感謝しております。1回1万円、年に3回までの計3万円の渡航費用の助成が受けられるのですが、その助成金の周知が足りないと感じています。

ゆんたく会に入会して初めて助成金について知る人もいます。中には自分ががんであることを公にしたくないという人もいますし、患者によっては申請する為に市役所に通うのが困難な方もいます。様々な理由で申請が負担になっている方がいますので、できれば一度の申請で、あとは旅行券の半券、領収書の提出だけで手続きが済むようにして頂ければありがたいです。

健康福祉センター 前底所長 まず、がん治療については条件が付けられています。一つ目は放射線治療です。現在、石垣島では治療を受けられませんが、二つ目は専門性の高い疾患です。がんは細かく分けると200種類ほどありますから、先生によって診る事ができる方と専門外で診ること

ができない先生がいます。三つ目は大量出血が予想される手術です。手術により明らかに血液が足りない事が予想される場合、四つ目は本市では困難な先進治療、五つ目は定期検査の為に、本土や沖縄本島で手術、治療を受けた方が定期検査を受ける場合です。

やはりがんが一番怖いのが再発してしまう事です。島外での定期検診が必要な場合にかぎり助成を認めましょうという事になっています。まずは主治医の先生にしっかりとチェックして頂かないと、結果として八重山病院で治療できるケースも素通りしてしまふ事になります。ですから、八重山病院で治療できるものに関して八重山病院で治療してもらい、それ以外に関しては主治医の先生と相談の上で、島外で治療を受けてもらいたいと考えています。地域の医療を守るといふ観点と、皆様の渡航費用負担の軽減という観点とをしっかりと考えて、患者やその家族の負担を少しでも軽くできるように手続きの簡素化に向けて検討し

ていききたいと考えています。

会員 島外でのがん治療について、現在八重山病院には部位別がん患者専門の先生がいないために、琉大病院や本土の病院などで手術を受けたり、術後の定期検査の為にその都度渡航しなければならず、かなりの負担を強いられています。そこで、新県立八重山病院が完成した時には、地元のがん患者が安心してがん治療に専念できるように、部位別専門ドクターの配置、がん病

棟の設置、充実などを行政からも県の関係機関に働きかけていきたいと思います。

健康福祉センター 前底所長 3年後には新しい県立病院が完成することになっています。建物が新しくなっても、医者がいなければどうしようもないということ、関係機関に働きかけています。

中山市長 今後とも、健康福祉センターなども相談しながら行政としてバックアップできる事はしっかりと対応させて頂きますので、連携して協力体制を築いていきましょう。今日はありがとうございました。

